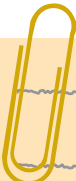




第5章



豊かな心を育む 教育文化のまちづくり



✳ 施策体系

豊かな心を育む教育文化のまちづくり

第1節 学校教育の充実

- (1)教育環境の整備・充実を図ります
- (2)「ともにづくり、みんなが育つ学校」の創造を推進します
- (3)知・徳・体のバランスのとれた子どもを育成します

第2節 地域文化の継承・形成

- (1)地域に根ざした市民文化の振興を図ります

第3節 歴史文化の保全・活用

- (1)文化財の保護と活用を図ります
- (2)郷土の先人を顕彰します

第4節 社会教育の充実

- (1)地域づくり、人づくりを目指した社会教育を推進します
- (2)社会教育活動の基盤整備を推進します
- (3)社会教育施設の利用促進を図ります

第5節 人権・同和教育の推進

- (1)学習機会の拡充と啓発活動を推進します
- (2)推進体制の充実を図ります

第1節 学校教育の充実

現況と課題

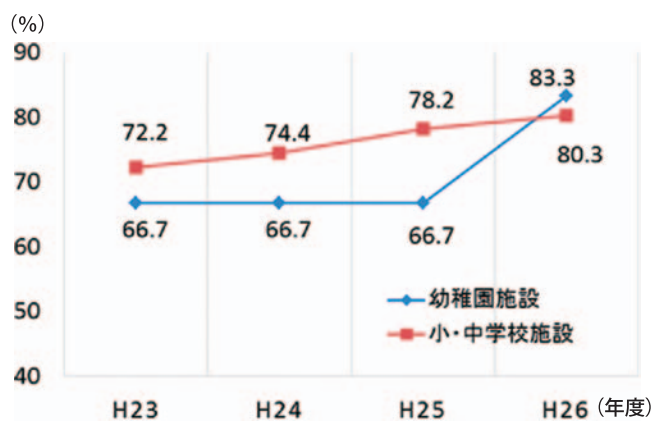
- 我が国の子どもの教育を巡る状況は、グローバル化や少子高齢化、情報化や科学技術の進歩などの急激な社会変化の中であって、学力低下、いじめ、不登校、規範意識の低下、社会性の欠如など、依然として厳しいものがあります。こうした激動の社会を生き抜く子どもたちには、心豊かにたくましく生きる力を確実に育成することが求められています。すなわち、自ら考え、互いに協働しながら主体的に課題を解決し、新しい価値を創造する力が必要とされています。
- そのためには、子どもたちに、「学びあい学習」の推進やICT^{*}の利活用なども図りつつ、協働型・双方向型の学びと、家庭学習の充実を通して、基礎的な知識・技能の確実な定着や課題を解決していく力を育てる必要があります。また、家庭や地域社会との連携・協力を推進し、豊かな体験を通して、生命を尊重し、感動する心を持ち、礼儀や規律を重んじる心を育て、体力づくりや食育などの推進を図り、たくましい体をつくる必要があります。
- 学校施設は、児童・生徒などの学習・生活の場であるとともに、非常災害時には地域住民の避難所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要であり、耐震化の推進が喫緊の課題となっています。本市においても、校舎の耐震補強は平成25年度に終了し、引き続き屋内運動場などの建替えを含めた耐震補強を推進して、安全・安心な教育環境づくりに努める必要があります。（図5-1-1参照）



「学びあい学習」

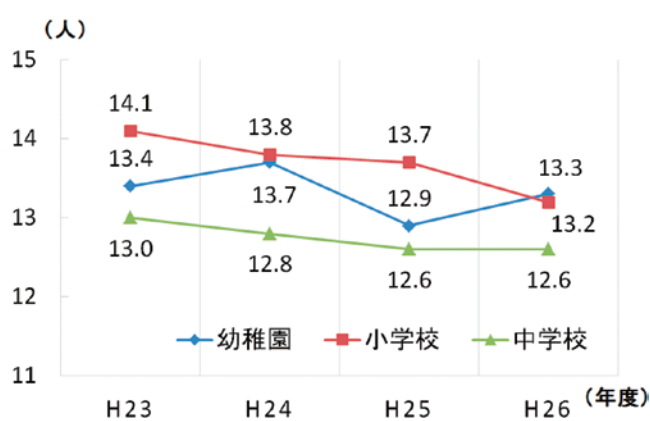
※ ICT…情報通信技術（Information and Communication Technology）

図5-1-1 幼稚園、小・中学校校舎などの耐震化率の推移



資料：教育総務課調べ

図5-1-2 教員1人当たりの児童・生徒数の推移



資料：学校教育課調べ

平成31年度までに取り組む 施策内容

- 教育環境の整備・充実を図ります
- 「ともにづくり、みんなが育つ学校」の創造を推進します
- 知・徳・体のバランスのとれた子どもを育成します

成果指標と目標値

指 標	現 状 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成31年度)
教育用パソコン	6.9人／台	3.6人／台
電子黒板・実物投影機の整備率	11%	100% (1学級当たり1台)
全国学力・学習状況調査平均正答率（総合）	小学校64.0% 中学校65.5% (平成26年度)	上昇させる

施策内容

(1) 教育環境の整備・充実を図ります

- ① 地震に備え、学校施設の耐震化を図ります。
- ② 子どもが安全で安心な学校生活ができる教育環境の整備・充実に努めます。
- ③ 学校にICTを導入し、わかる・できる・楽しい授業を創造し、校務の省力化などを図ることで質の高い教育を行います。

基本事業名	内 容	主な予算事業
耐震化改修事業	昭和56年度以前に整備された校舎などの耐震化	小中学校・幼稚園校舎等耐震改修事業
ICT教育の推進	ICTの積極的な導入による教育環境の整備	小・中学校ICT教育推進事業 ICTを活用した21世紀型スキル教育実証事業
幼児教育の推進	就園奨励費の維持 子ども・子育て支援新制度の実施	私立幼稚園就園奨励事業 私立幼稚園施設型給付事業
児童生徒の安全・安心の確保	児童生徒の登下校や地域での安全を確保	児童生徒の安全確保事業
高等教育を受ける機会の充実	高校及び大学奨学金の維持	奨学金貸付事業

(2) 「ともにづくり、みんなが育つ学校」の創造を推進します

- ① 一人一人の子どもを大切に作る学校づくりに努めます。
- ② 子どもの成長を支える家庭や地域との連携・協働の強化に努めます。
- ③ 教師力の向上と学校力の充実に努めます。

基本事業名	内 容	主な予算事業
生徒指導の充実	いじめ、非行防止対策の推進、相談体制の充実、関係機関との連携強化	ハートなんでも相談員設置事業 青少年育成センター管理運営事業 青少年健全育成事業
家庭・地域への積極的な情報発信と連携強化	ホームページや学校だよりなどの充実、学校評議員や学校支援ボランティアとの連携・協働の強化	学校評議員制度運営事業 児童生徒の安全確保事業 学校等連携教育推進事業
ウイングサポートセンターの充実	成長・発達に不安のある子どもが、自立し、地域で豊かに生きていくことができるために必要な支援の充実	ウイングサポートセンター管理運営事業

(3) 知・徳・体のバランスのとれた子どもを育成します

- ① 基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに、学んだことを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、自ら進んで学習に取り組む態度を育成します。
- ② 豊かな体験を通して、生命を尊重し、感動する心を持ち、礼儀や規律を重んじる心を育成します。
- ③ 生涯を通じて活力ある生活を送るための基礎となるたくましい体を育成します。

基本事業名	内 容	主な予算事業
確かな学力の定着と向上	「学びあい学習」の推進、学力診断、学習習慣確立の支援	西条っ子学びの向上推進事業
豊かな心の育成	ふるさとに学ぶ活動の推進、優れた芸術文化に触れる機会の提供などによるコミュニケーション能力の向上	総合学習推進事業 コミュニケーション教育推進事業
健やかな体の育成	学校体育による総合的な体力づくりの推進	各種学校行事等実施事業
防災教育の充実	小学6年生を中心に防災を題材とした総合的な活動の実施	12歳教育推進事業
国際交流活動の推進	小・中学生による国際交流活動の一層の推進	外国語指導助手(ALT)招致事業 小・中学生国際交流推進事業

第1期（平成18～26年度）における実績

- 東日本大震災を受け、各幼稚園、小・中学校の危機管理マニュアルを見直し、改善を図りました。避難訓練についても、小・中学校を中心に、近隣の幼稚園、保育所、企業などの合同開催や二次避難の訓練、避難所開設訓練など、工夫を凝らした取り組みを実施しました。
- 12歳教育（防災教育）を実施し、学校、地域で活躍できる未来のリーダー育成を図りました。「ぼうさい甲子園」や「防災まちづくり大賞」での受賞や、平成23年度から3年間、ベトナム国フエ市に防災教育支援事業などを行いました。
- 平成23年度にウイングサポートセンターを開設しました。利用者の増加と利便性を考え、平成26年度に西部地域にウイングサポートセンターを開設しました。特別支援教育に関する保護者や市民の理解が深まり、障害のある幼児、児童・生徒への適切な支援や相談活動が充実してきました。

第2節 地域文化の継承・形成

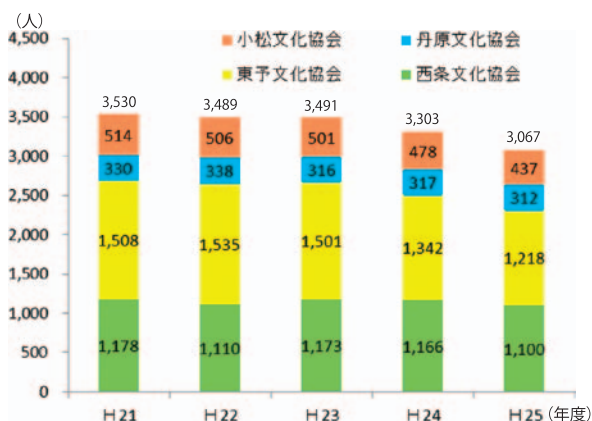
現況と課題

- 今日の経済や情報技術の進歩は、グローバル化という世界規格化により、現代社会に激しい生活の変化をもたらし、効率性を重視する風潮の中で、地域社会においては、日本人の文化的独自性が失われつつあります。本市においても例外でなく、地域の伝統文化の確実な継承という面で問題が生じつつあります。
- このような状況の中、地域文化の継承・振興は、市民の身近な文化芸術活動への参加・創造だけでなく、次世代教育・福祉・経済など様々な面で活力のある地域社会を形成していく上での重要な課題であると言えます。（図5-2-1・図5-2-2参照）
- また、合併により、多様な地域伝統文化を包含することとなった本市においては、それぞれの地域の特徴を尊重しながら、一体感を感じさせる新たな地域文化を形成していくことも重要な課題となっています。



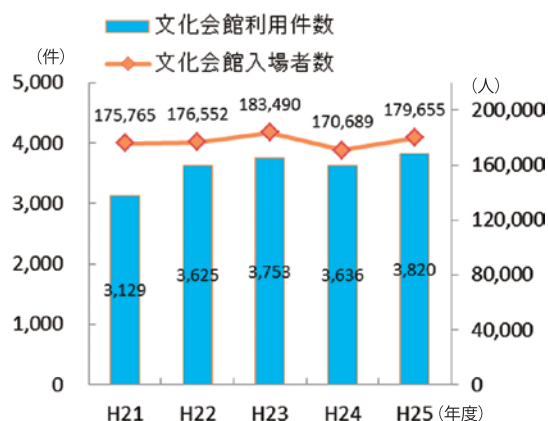
殿中奴（松下流）（市指定無形民俗文化財）

図5-2-1 文化協会会員数の推移



資料：社会教育課調べ

図5-2-2 総合文化会館及び丹原文化会館利用実績の推移



資料：社会教育課調べ

平成31年度までに取り組む 施策内容

- 地域に根ざした市民文化の振興を図ります

成果指標と目標値

指 標	現 状 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成31年度)
文化協会会員数	3,067人	3,400人

施策内容

(1) 地域に根ざした市民文化の振興を図ります

- ① ふるさとの自然と文化を愛する心を培い、文化会館や公民館をはじめ生涯学習施設を活用して、各種文化団体や自主サークル活動の支援などを通して、郷土の歴史及び文化に対する認識向上を図ります。
- ② 次世代を担う子どもたちに対して、地域で活動している人たちとの交流を通して、郷土の歴史や伝統・生活文化を学び、触れる機会の充実を図り、郷土に対する愛着を深めます。
- ③ 郷土文化の掘り起こしや調査を行い、市内各地で開催される伝統行事などを、広く市民に紹介します。
- ④ 活力ある地域文化活動を推進するため、優れた伝統文化・芸術に触れる機会の充実を図ります。

基本事業名	内 容	主な予算事業
芸術文化団体への活動支援	団体への支援による活動強化	社会教育関係団体活動事業
伝統文化に触れる機会の充実	国などの助成制度の活用	—
優れた芸術文化に触れる機会の充実	文化活動の推進	文化講演会実施事業 宝塚歌劇公演事業



文化協会主催の文化祭



小学生で結成している太鼓保存会

第1期（平成18～26年度）における実績

- 4地域の文化協会の合併を進め、新たに「西条市文化協会」を設立して、補助金の統合や顕彰事業の充実などを図りました。
- 平成25年8月に、市民の芸術文化の創造と発展を図る地域交流施設として位置づけ、市の文化振興の拠点ともなる「五百亀記念館」を開館しました。

第3節 歴史文化の保全・活用

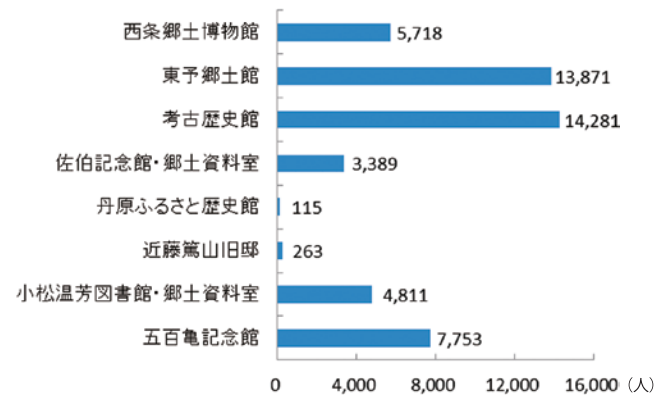
現況と課題

- 先人の残した貴重な文化財を後世に伝えていくことは、われわれに課せられた大切な使命であり、地域を育み発展させていく上で欠かせないことです。これまでも様々な取り組みが行われてきましたが、近年は、適正に保存するとともに、地域活性化に繋がる活用を図るという考え方へ移行してきています。
- 活用するに当たっては、これまで以上に文化財に対する認識を深め、保存活動を進めていく必要がありますが、本市にある貴重な文化財の全てが知られているとは言えない状況です。
- 個性的な風土や文化を活かしたまちづくりを行い、市民共有の財産としての文化財を確実に次世代に継承していくためには、市内の文化財の実態を把握、整理することによって、適切な保護・活用にあたる必要があります。さらに市民が郷土の先人たちの優れた業績や、歴史・文化に触れる機会を充実させていくことが重要な課題となっています。(図5-3-1・図5-3-2参照)



永納山城跡調査成果企画展

図5-3-1 郷土博物館・歴史館などの利用状況



※ H25年度の入館者数 資料：社会教育課調べ

図5-3-2 指定文化財の現状



指定文化財数174件

※ H26年3月末現在 資料：社会教育課調べ

平成31年度までに取り組む
施策内容

- 文化財の保護と活用を図ります
- 郷土の先人を顕彰します

成果指標と目標値

指 標	現 状 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成31年度)
指定文化財数	174件	180件

施策内容

(1) 文化財の保護と活用を図ります

- ① 文化財の実態調査や資料整備、企画展開催などに努めて周知啓発を図り、その保存・活用を推進します。
- ② 国指定史跡「永納山城跡」については、用地公有化を推進するとともに、史跡の保存・活用を図り、地域の誇れる文化財として全国に情報発信します。
- ③ 民間開発事業や国営・県営ほ場整備事業実施に伴う埋蔵文化財の実態把握に努めます。
- ④ 市内各地に点在している埋蔵文化財関係資料や発掘調査などにより増加が見込まれる出土品を併せて一括管理し、整理・調査研究・普及啓発活用を行うための拠点施設を整備します。



職員による出前講座

基本事業名	内 容	主な予算事業
国指定史跡永納山城跡保存・活用の推進	用地公有化及び保全・整備 公開活用事業の実施 市内外への情報発信	永納山城跡用地公有化事業 永納山城跡保存整備事業 (仮称)古代山城サミット西条大会開催事業
埋蔵文化財の実態把握	民間開発事業や国営・県営ほ場整備事業に伴う試掘、発掘調査	埋蔵文化財発掘調査事業
埋蔵文化財の一括管理・活用の推進	既存施設を活用した埋蔵文化財の拠点施設の整備	埋蔵文化財整理保存施設整備事業
文化財保護・啓発活動の推進	補助金の交付、指定文化財の周知	文化財保護事業

(2) 郷土の先人を顕彰します

- ① 本市にゆかりのある先人・偉人の業績を称える企画展の開催などにより、市民の郷土に対する認識向上を図ります。

基本事業名	内 容	主な予算事業
郷土の先人・偉人に関する情報発信の充実	企画展や関連講座の開催	偉人顕彰事業



五百亀記念館（平成25年8月開館）

第1期（平成18～26年度）における実績

- 国指定史跡永納山城跡において、平成18年度から23年度まで内部施設の確認調査を行い、平成25年度において調査成果の公開展示、報告会を開催し市民周知に努めました。また平成23年度から用地公有化事業に着手しました。
- 近藤篤山先生に関して平成20年度から3カ年にわたり、シンポジウムの開催、啓発用小冊子の発行など、顕彰事業を展開しました。
- 平成25年8月に本市出身の彫刻家伊藤五百亀氏の顕彰施設として「五百亀記念館」を開館しました。

第4節 社会教育の充実

現況と課題

- 今日のように、社会情勢がめまぐるしく変化し、人々の価値観が多様化している時代の中では、より充実した人生を送るために、生涯を通じて学び、生きがいや心の豊かさを求めようとする意識が高まっています。こうした市民一人一人のライフステージにおける学習活動への支援や、生涯学習を通じて得た知識や能力を、様々な形で地域づくりに活かせる生涯学習社会の実現に向けた取り組みが必要です。(図5-4-1参照)
- 少子化や核家族化、都市化の進展などを背景に、地域のつながりの希薄化や家庭・地域の教育力の低下が問題となっています。今後、21世紀を担うたくましい子どもたちを育てるため、家庭教育を総合的に支援するとともに、家庭、学校、地域社会がより強固な協力体制を確立し、青少年育成活動を展開するなど、子どもたちの健全育成を地域全体の課題として支援する環境整備が求められています。(図5-4-2参照)
- 生涯学習の拠点となる公民館などの利用環境の充実を図り、地域課題の解決や地域ネットワークの強化などに繋がる、地域づくり・人づくりを目指した社会教育を推進する必要があります。

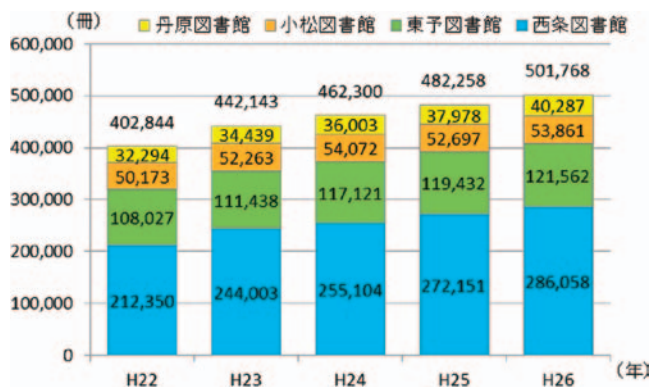


図書館ネットワークの中心となる西条図書館



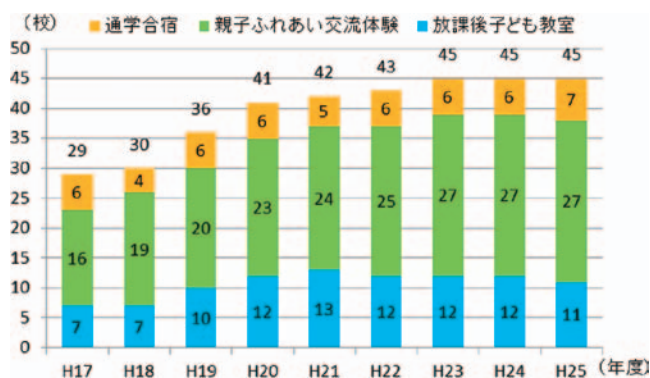
親子ふれあい交流体験（お川狩り）

図5-4-1 市立図書館における蔵書数の推移



※各年3月末現在 資料：社会教育課調べ

図5-4-2 放課後子ども教室と親子ふれあい交流体験・通学合宿実施数の推移



資料：社会教育課調べ

平成31年度までに取り組む 施策内容

- 地域づくり、人づくりを目指した社会教育を推進します
- 社会教育活動の基盤整備を推進します
- 社会教育施設の利用促進を図ります

成果指標と目標値

指 標	現 状 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成31年度)
市民大学修了者数	232人	380人
公民館利用延べ人数	695,185人	743,000人
放課後子ども教室実施数	11教室	17教室

施策内容

(1) 地域づくり、人づくりを目指した社会教育を推進します

- ① 市民の学習ニーズや地域課題などを的確に捉え、地域の自主性・主体性を活かした地域密着型の生涯学習を推進します。
- ② 学校・家庭・地域の連携により、社会性、協調性、豊かな心を持った青少年の育成を図ります。
- ③ 地域における危機管理意識の向上と公民館を拠点とした地域ネットワークの強化に努めます。

基本事業名	内 容	主な予算事業
多様な学習機会の提供	学習ニーズや地域課題などに対応する講座・教室の開設	市民大学等開設事業
公民館活動の推進	地域住民の参画による地域密着型の生涯学習の実現	公民館活動費
青少年健全育成の推進	家庭や地域における子育て環境の充実支援	21世紀を担う子育て事業 放課後子ども教室推進事業
各種社会教育団体の活動支援	団体の活動支援による地域ネットワークの強化	社会教育関係団体活動事業

(2) 社会教育活動の基盤整備を推進します

- ① 市民の生涯学習に対する様々なニーズに対応する活動拠点として、公民館や博物館などの社会教育施設の基盤整備を図ります。
- ② 生涯学習推進講師の人材の発掘・活用や学習情報の提供など学習環境の充実を図ります。

基本事業名	内 容	主な予算事業
公民館施設の基盤整備	駐車場整備、バリアフリー整備、耐震改修	公民館管理運営費 公民館バリアフリー整備事業 公民館耐震改修事業
博物館など社会教育施設の整備	埋蔵文化財・郷土資料などの保存活用施設の充実	埋蔵文化財整理保存施設整備事業
学習環境の充実	市生涯学習推進講師の登録や学習情報の提供	社会教育一般管理費

(3) 社会教育施設の利用促進を図ります

- ① 人づくり・まちづくり・情報発信の拠点として図書館を位置づけ、市内4館が連携した図書館のサービス機能の充実に努め、利用促進を図ります。
- ② 西条郷土博物館・五百亀記念館などの社会教育施設の利用促進を図るため、ワーキンググループなどの検討結果による社会教育施設の整理統廃合や再生を実施するとともに、展示内容の再編や企画展の充実に努めます。

基本事業名	内 容	主な予算事業
図書館のサービス機能拡充	蔵書の充実と4館連携による利便性の向上	図書購入事業（西条図書館・丹原図書館） 図書館システム機器更新事業
博物館など社会教育施設の利用促進	社会教育施設などの整理統廃合や再生の実施 展示内容の再編や企画展の充実	社会教育施設管理運営事業 五百亀記念館企画展開催事業

第1期（平成18～26年度）における実績

- 市民大学の開催、公民館における講座・教室の開催など、学習機会の提供に努めるとともに、広報紙、ホームページなどで情報提供を行いました。その結果、市民大学の延べ受講者数が921人（平成17年度）から、1,620人（平成25年度）へ増加しました。
- 市民の学びの場である図書館機能を向上させるため西条図書館と丹原図書館の整備を行い、4館による市内図書館ネットワークが構築されました。
- 旧施設の老朽化などに伴い、丹原公民館、石根公民館、大町公民館を整備しました。

第5節 人権・同和教育の推進

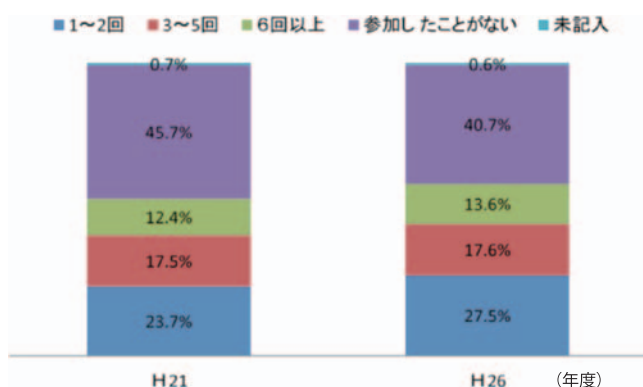
現況と課題

- 市民総ぐるみの人権・同和教育研修会などの推進を図るため、市民意識調査の結果を踏まえた学習機会を提供するとともに、研修会などへの積極的な参加や効果的な啓発活動の推進を図ってきました。(図5-5-1参照)しかし、参加者の固定化が見られたり、学んだことが知的理解にとどまり、日常的な人権感覚が十分身についていないという現状の中で、正しい行動化に繋がる、より実践的な学習が求められています。(図5-5-2参照)
- 人権施策推進体制の充実を図るため、人権文化のまちづくり基本計画に基づいた庁内推進計画を策定、実施するとともに、西条市人権教育協議会や愛媛県人権対策協議会西条支部との連携強化を図ってきました。今後とも、関係機関との連携強化を図り、地域と一体となった人権・同和教育を推進していく必要があります。
- 核家族化や生活習慣の多様化などにより、人間関係の希薄化が進み、豊かな人間関係を築いていくことが困難な時代へと移行してきました。また、国際化の影響により、多くの外国の人たちと日常的に接する機会が多くなりました。多様な価値観、生き方を持つ人たちと共存するためには、互いの違いを認め合い、相互理解を図っていくことが大切です。



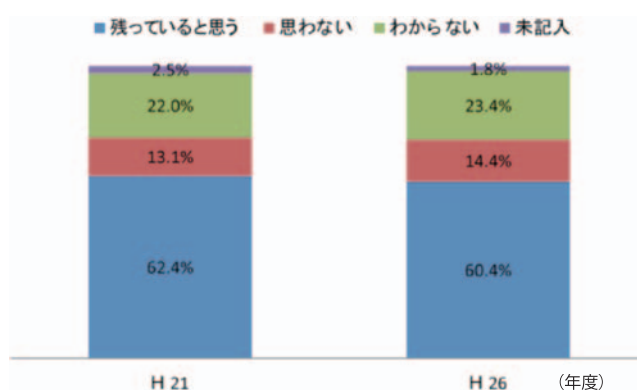
人権・同和教育リーダー養成講座

図5-5-1 人権・同和教育に関する講演会・研修会・懇談会などの参加状況



資料：人権問題に関する市民意識調査結果より

図5-5-2 同和問題が今も残っていると感じる市民の割合



資料：人権問題に関する市民意識調査結果より

平成31年度までに取り組む 施策内容

- 学習機会の拡充と啓発活動を推進します
- 推進体制の充実を図ります

成果指標と目標値

指 標	現 状 値 (平成25年度)	目 標 値 (平成31年度)
講演会などに参加経験のある市民の割合	58.7%	64.0%
同和問題が残っていると感じる市民の割合	60.4%	58.0%

施策内容

(1) 学習機会の拡充と啓発活動を推進します

- ① 人権・同和教育を生涯学習として位置づけ、全ての市民がいつでも、どこでも学べるよう、学校・家庭・地域及び職場などのあらゆる場において、人権問題を身近な問題として取り組むことができるように努めます。また、様々な機会を通じた啓発活動を行い、人権尊重の理念が、地域に根付いていくよう取り組んでいきます。

基本事業名	内 容	主な予算事業
人権・同和教育学習機会の提供	人権・同和教育講座、人権・同和教育リーダー養成講座など	人権教育推進事業
効果的な啓発活動の推進	人権を考える日のチラシ、人権カレンダーなど	人権教育推進事業

(2) 推進体制の充実を図ります

- ① 人権施策を総合的かつ効果的に推進するため、西条市人権教育協議会や関係機関・団体などとの連携をさらに深め、地域と一体となった人権・同和教育を推進します。
- ② 人権文化のまちづくり基本計画に基づき、人権課題解決に向けた全庁的な取り組みを推進します。

基本事業名	内 容	主な予算事業
人権・同和教育関係団体との連携	西条市人権教育協議会活動の推進など	人権教育推進事業
人権文化のまちづくり庁内推進計画	人権文化のまちづくり条例具現化を図るため全庁的な取り組み	—

第1期（平成18～26年度）における実績

- 市民大学人権・同和教育講座を開催し、広く市民の人権意識の高揚を図ることができました。また、人権・同和教育リーダー養成講座を通して、地域のオピニオンリーダーの育成に努めました。
- 市人権・同和教育研究大会を開催し、効果的な人権・同和教育の在り方について協議を行いました。また全国人権・同和教育研究大会などへの積極的な参加を行い、各地の先進的な取り組みに学ぶとともに、本市の取り組みを全国に発信することができました。
- 広報紙へ人権・同和教育シリーズを掲載するとともに、人権を考える日（毎月10日）のチラシ作成・配布や公共施設にのぼり旗の設置を行うなど、広く啓発に努めました。
- 企業・事業所に対しては、人権・同和教育研修会を年2回開催するとともに、講師派遣や研修資料の配布などを行いました。